

夢に向かって

さいたま市教育委員会委員
清雲 栄純

皆さんはサッカーの小野伸二選手を知っていますか。
私と伸二の出会いは日本代表ユース(18歳以下)のキャンプです。最初の印象は「笑顔を絶やさずあいさつがしっかりしている少年」でした。伸二は、まっ先にボールや用具を練習場に運び、練習では先頭に立って全力で取り組み、練習が終わると使用したものをきちんと片付ける。何事にも献身的に取り組む彼の姿にチームメイトは感化され、いつしか「チームのために」が合言葉になりました。このチームは世界ユース選手権では見事、準優勝に輝きます。その後もオリンピックやワールドカップの代表選手として日本サッカーを牽引してきました。サッカー界では今でもこのときの選手たちを「黄金の世代」と呼んでいます。

伸二が17歳のときです。私に次のような話を聞かせてくれました。
伸二は兄弟が多い母子家庭で育ち、家庭は貧しく、小学校2年生までは少年団にも入れなかったそうです。しかし、一人でボールを蹴る伸二に地域の人たちはいつも温かい声をかけ、サッカーを続ける勇気を与えてくれたそうです。『私は立派なサッカー選手になってお母さんを楽しませてあげたい』そして、『地域の人に恩返しをしたい』と、話しながら彼の目からは涙が流れていました。

この一か月後に伸二は浦和レッズへの入団を決めます。私たちはまず自分のことを考えがちですが、伸二は今まで自分を支えてきた家族や友人、地域の人、先生や指導者を大切に考えてきたのです。

- ・サッカーを楽しむこと
- ・仲間を大切にすること
- ・いつも元気であること
- ・うそ、悪口は言わないこと

これはサッカースクールをするとき、伸二が子どもたちと交わすルールです。
皆さんもこれから小野選手のように、誰かのために希望や感動を与えられる機会はたくさんあると思います。失敗を恐れず未来の夢に向かって羽ばたいてください。

清雲委員は、元サッカー日本代表選手、また、指導者として活躍されてきた方です。

保護者の皆様へ



さいたま市教育委員会
いじめや自殺など子どもをめぐる痛ましい事件が発生しております。さいたま市教育委員会は、市にゆかりのある方々に御協力をいただき、子どもたちに「希望をはぐくむメッセージ」をお届けすることといたしました。

学校では、子どもたちにメッセージを読み聞かせました。ぜひ御家庭でも話題にさせていただきよう願っています。